

心ネットワーク



△丘小学校の開校により丘地区は誕生しました



さわやかで 活力あるまち 丘

このコーナーでは、公民館単位に各地区の話題や人物を紹介します。あなたの地区でのちょっとしたこぼれ話、出来事、ご意見などありましたらご連絡ください。12月は大湖、2月は神戸地区です。連絡先…市内永田町1-100 市広報広聴課 ☎51-0123 内線2822、締め切りは毎月15日です。(1月は新年号発行のため休みます)

丘地区は、昭和四十八年、丘小学校が開校したことを契機に、鷹岡地区の厚原、伝法地区の片宿・傘木、大湖地区の末広町が合併してできた地区です。

厚原地区は、歴史も古く、鎌倉時代に甲斐の人、植松兵庫之助信継が熱原に移り住んで、現在の鷹岡伝法用水路(通称「一本樋」)をつくり、付近の開拓をしたときから始まります。また、鎌倉時代、入山瀬にあった天台宗滝泉寺の院主代行智と幕府の日蓮教団弾圧事件は、熱原神四郎の磔という結末となり歴史上、熱原法難として知られています。

地区は、近年まで農業地域でしたが、高度経済成長による産業の発展につれ、通勤圏として、ベッドタウン化が進み、特に西富士道路が開通してからは、市内でも一、二位を争う人口急増地区となっています。

しかし、南部の厚原南は、水田地帯、北部の厚原北・末広町は、茶畑の広がる農業地域で、まだまだ自然の景観が残る地区です。



△写真左から光則さん、辰弥君、由佳さん、貞江さん、香余さん



おはやしファミリー

厚原中 鈴木さん一家



厚原中のお地藏さんのお祭りでは絶えて久しかったおはやし。それを家族あげて復活させたという、とてもにぎやかな鈴木さん一家におじゃましました。

五・六年前、青年会の役員をしていた光則さん(四十二歳)は、公会堂でほりにまみれた太鼓を見つけました。光則さんも奥さんの貞江さん(四十二歳)も根っからのお祭り大好き人間。太鼓を見つけた光則さんの頭に祭りばやし

が広がったのは、いうまでもありません。そしてこの夏、厚原中のお地藏さんの祭りで、光則さんは太鼓を復活させました。たたく人は鈴木家の家族五人。光則さんと長男辰弥君が太鼓、長女香余さんと次女由佳さんが小太鼓、貞江さんが鐘を担当します。

江さんが鐘を担当します。笑い声が絶えず、ネアカの鈴木家のこと、豆だらけになった手の痛さも忘れて、すばらしいリズムを披露しました。

ひげが自慢の光則さんは「最近社会が全体的にクールになって地域の行事に元気がありません。太鼓を通して楽しみながら地域の和ができれば」と考える熱血漢。

これからの課題は、芽が出たばかりの太鼓をいかに継続するかということ。来年は近くの子供たちにも広め、将来は「丘ばやし」をつくりたいと考えている皆さんです。